豊中・織元のDNAを繋ぐ

「結城紬」の仕事の素晴らしさを愛でて

豊中・織元の始まりは、54年前。

初代女将・小俣淑子さんが、友人のきものを見立てるうちにお客さまが広がり、呉服店として開業することになりました。

お店をだすにあたり、心に決めたことは、「本物だけをお見せしよう」ということ。お客さまを美しくするために小物一つでも京都に探しに行くというこだわりです。

そんななかで、ふと立ち寄った道具屋で、縮の結城紬を見つけました。縮の結城紬は今ではほとんど作られていないもの。その美しさに惚れ込んで集めはじめ、ついに500反を超えました。時代の波に消えてしまうものを忘れたくないと、コレクションしています。

縮のコレクションを手にする、の小俣淑子さん。無端庵の一室　反物に戻したコレクションのめられています。今ではほとんていないが、着心地の良さを知小俣さんの愛が注がれていま紬の装いのコツは、上質の帯と」と語ります。この日はお気桜の帯を合わせて。右◇コレク洒脱な文様を織り出した、結城

せ／豊中・織元　☎06-6849-5298